

子育て 孫育て 自分育ち



しあわせはどう？

くだけ会代表

和田 重良

この「いきいきエデュケアー」を書き始めて早くも半年が過ぎました。

この辺で、この「いきいきエデュケアー」を書いている「目的」をハッキリ書いておきたいと思っています。「くだけの願い」そのものですから。

家庭の生活と教育

先日、家内は67歳になりぼくは間もなく70歳となります。立派に正真正銘の「老夫婦」なのですね。でも、はじめっからそうだったのではなく、はじめはちゃんと「若い夫婦」の時代もあったのです。その出発の頃から家庭の理想や願いや方向が確立していたかと言えばそんなことはなかったのです。

そのうち長女が生まれ、長男が生まれ、次女が生まれ、三女が生まれ、四女が生まれて7人もの大家族になり、ぼくの父と母とも同居して9人家族となり、常に5人〜10人の寮生をお預かりするようになつて15人だったり20人もの大々家族となつたりもしたのでした。

そうなる通常に「家庭の生活とはどうあるべきか」とか「教育はどんな目的すべきか」などを問うこととなり、それが「くだけの願い」と一つになつていふのです。家庭というのは家族の寄り集まりですから、毎日の生活の中に「方向性」が大切なのです。家族一人一人個々の存在が活かされていくには「キマリ」で縛りつけるより「どっち向きで生きていこうか」という目標というか

「方向性」が大事だとなるわけです。

ぼくの場合、「方向性」はいつも「くだけ」の裏表紙に書いてある「やすらぎ 明るさ 希望」の三拍子です。毎日それを確認していることもできないので、週に一回程度、どんなに忙しくても「家庭常会」を開いて全員が揃って楽しく話し合ったりしていたのです。ぼくの役割は、そうとは言わず、「やすらぎと希望と明るさがあるかどうかのチェック」を心の中でしているのです。

ぼくはみんなのお父さんですから、そういう「方向性」の羅針盤調整役ですね。それはハッキリ自覚してやっていました。

しあわせはどう？

その「目的」と言うと、これはハッキリしていません。そこに居る全員（一人も目こぼしなく）がそれぞれ「しあわせ」を毎日確保していくという事です。それを抜かして「教育」も「生活」もないのです。

そうすると、「しあわせ」はどこにあるのかという問いになっていきます。ここでもぼくは羅針盤調整役をしていきます。なぜかと言うと、皆、学校や社会に出て行って「成績や評価や能率やお金や地位や名声」などの「しあわせの本体」ではないものに振り回されてくるからです。

本当の「しあわせ」は「自分の持っている能力を充分に発揮していく」というところにあるのだという基礎を作っていくわけです。

(次号11月号「地球人類の維持」につづく)



一口メモ

自分の持っている能力を
発揮するしあわせ